



主力製品 産業用小型ドローン

- 本社所在地：千葉県千葉市中央区
- 事業概要：非GPS型小型ドローン開発、点検・測量ソリューションサービス、小型ドローン「IBIS」の販売・レンタル、映像加工・編集サービス
- 常時使用する従業員：107名  
(2025年7月時点)
- 現在の売上高：14億円  
(2025年7月期)
- 法人番号：7040001096770
- Web：<https://liberaware.co.jp/>

## 企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役  
関 弘圭

## 誰もが安全な社会を作る

私たちは、独自に開発した世界最小級の点検用ドローンやデータ編集・解析技術を通して、これまで困難とされていた「狭くて、暗くて、危険な」空間の点検を実現するとともに、従来の点検手法では気づくことのできなかった見えないリスクを徹底して可視化することで、屋内設備点検のあり方を根本から変革します。人々の暮らしを支える社会基盤が、これからも当たり前存在であるために私たちは商業施設や交通設備、プラントなどの社会インフラにひそむ様々なリスクを、自由な発想と新たな技術によって明らかにすることで未曾有の事故や災害を未然に防ぎ、誰もが安全な社会を作りだします。

## 売上高100億円実現の目標と課題

### 実現目標

毎年160%程度の継続的な成長を続け、2030年に売上高100億円を達成します。  
そのために従来の強みである屋内・小型ドローンの領域だけでなく、様々な新規事業や他社との協業・M&A、新規プロダクト開発に積極的にとり組み、日本のドローン業界における圧倒的No.1の立ち位置を確立します。

### 課題

- ・建設業界やプラント分野などの新たな領域におけるドローン活用の成功事例の積み重ね、及び業界標準として横展開
- ・プロダクトラインアップの拡大に向けた開発、製造体制の確立
- ・海外展開のための各種の認証取得や海外プロジェクトの獲得
- ・上記を実現するための組織体制、及び人材確保

## 売上高100億円実現に向けた具体的措置

### 目指す成長手段

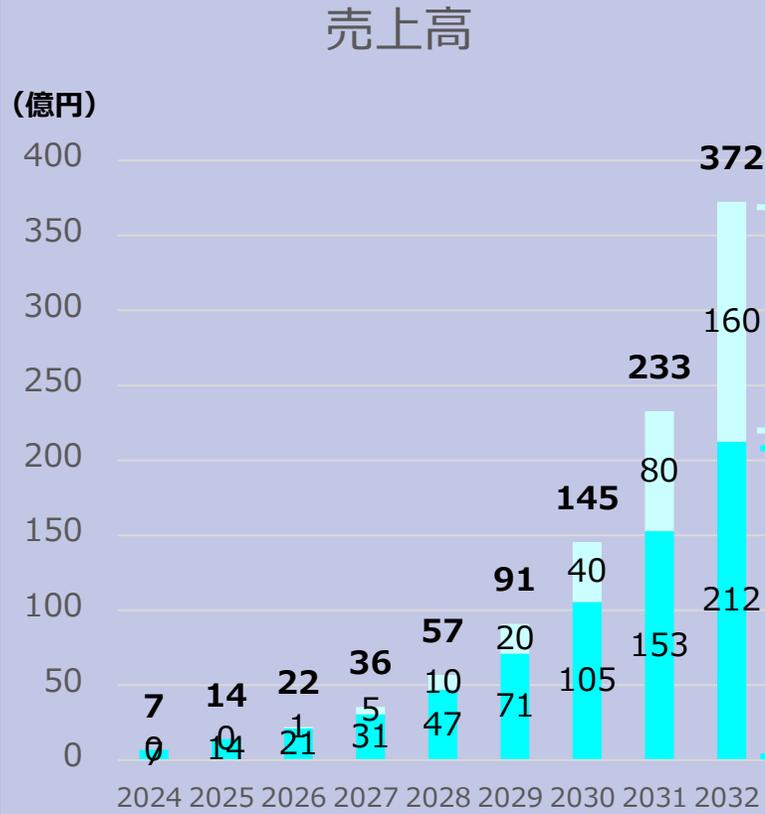
- ・現在の収益の柱である小型ドローン事業、データ解析事業の継続的な非連続の成長
- ・準備中の鉄道業界向け、建設業界向けの新規事業を立ち上げ、数億円規模の事業への成長
- ・数少ない日本発ドローンメーカーとして、アジアを中心とする海外での早急な認知・実績作りおよび数十億円規模への拡大
- ・ドローン業界全体の伸長に向けた積極的な他業界との協業や官公庁との積極的な関係性構築

### 実施体制

- ・他業界への横展開や海外展開の加速のために、ドローン活用に関するマニュアルや顧客サポート、顧客育成の体制整備
- ・プロダクトラインナップ拡充に向けた開発体制
- ・複数のプロダクトの量産を実現する体制の構築  
(物流や調達体制の整備、生産拠点の拡大、そのための技術者の積極採用等)
- ・鉄道点検用ドローンの開発等、新規事業の速やかな社会実装に向けたロビイングや法整備に向けた活動

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

売上100億円実現に向けた事業計画



100億達成

海外事業

- ・現在の韓国、香港、マレーシアでの事業拡大
- ・その他アジアや欧州市場への拡大
- ・世界のドローン市場は2030年に8.6兆円と推計(\*)

国内事業

- ・既存事業・データビジネスの規模拡大
- ・次世代IBISの開発、販売規模拡大
- ・新規事業やプロダクト開発への積極投資
- ・鉄道SBIR事業として、JR東日本をはじめとする鉄道事業各社と準備を進め2028年開始予定
- ・国内における鉄道SBIR事業のSOMは2000億円と推計(\*)

鉄道SBIR事業で開発中の  
鉄道点検用ドローン

自律飛行・遠隔監視によって、  
鉄道点検における  
省人化、無人化に貢献

ドローン以外の新規プロダクト  
自動監視型カメラ「トリノス」

遠隔操作が可能で、  
広域の自動監視に適応

屋内・狭小空間に特化した世界  
最小クラスの産業用ドローン  
「IBIS (アイビス)」

福島原発や、八潮の道路陥没事  
故における調査等で活躍

Note : \*1USD=150円で試算

Source : インプレス総合研究所「ドローンビジネス調査報告書2025」、富士キメラ総研「2025 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編 製造業より」、  
Drone Industry Insights "Drone Market Report 2025-2030"